

日記帳

二年三部

日下部紀子



田中
大正
昭和



十月十八日 水 小雨晴



今日から新しい帳面だ。
年後になると雨がやんだので、
いすを、外へ出した。さうして、
お勉強も外でした。作業のお時
間は、さつまいものくきの皮む
きをやった。私は、橋本さんと
一しよにやった。いすを畠のそ
ばにやって、その上でやった。
かはり番に取りに行つた。一生
けん命やつたので、一時間だけ
で二百本いじようむけた。むい
た、皮と葉は、うさぎにやった
うさぎは、とてもよろこんでた

(晴雨) 木 日 九 十 月 十

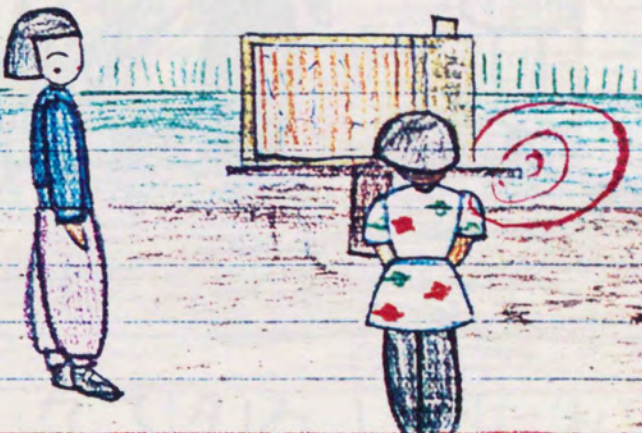


朝、目をさますと、雨が降つてある。向かいの松の木は、雨にぬれて、きらきらと、つらつらと、色づいて、葉がきれいにみどり色に、三時間目の体操の時間、雨が降って体操が出来ないので、岩丸先生が、そんごうといふ。面白い本を、読んで下さった。五時間目の生けん命聞いた。五時間目の作業をやっていると雨がやんで、日が照って来た。四時ころ高田先生と一しよに、水

省 反

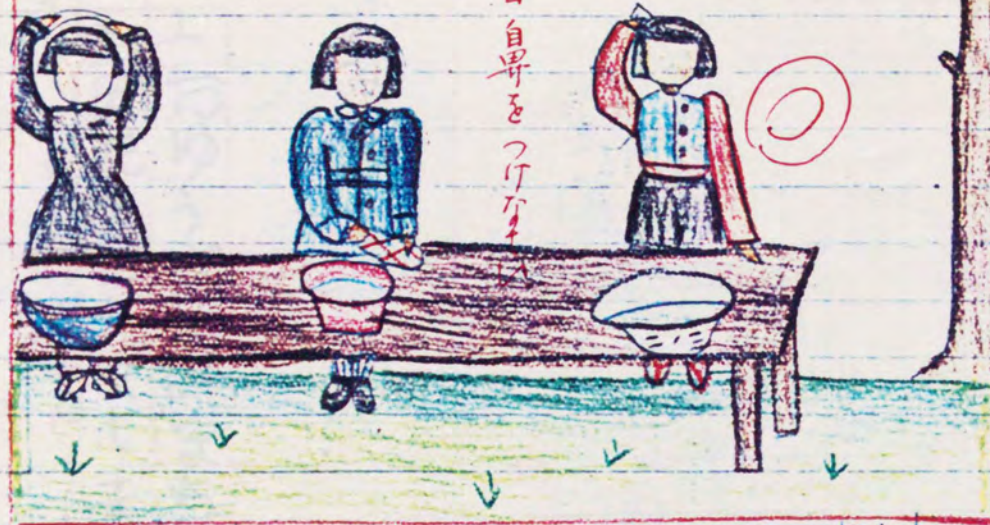
2 1

皮をむく時きたなくむいたのがわるい。
いつものろしてみたのがわるい。



べた。私はそれから繪日記を書いた。お八つには、又、おいしい菓子パンが出た。

(晴) 金 日十二月十



目自昇をつけた

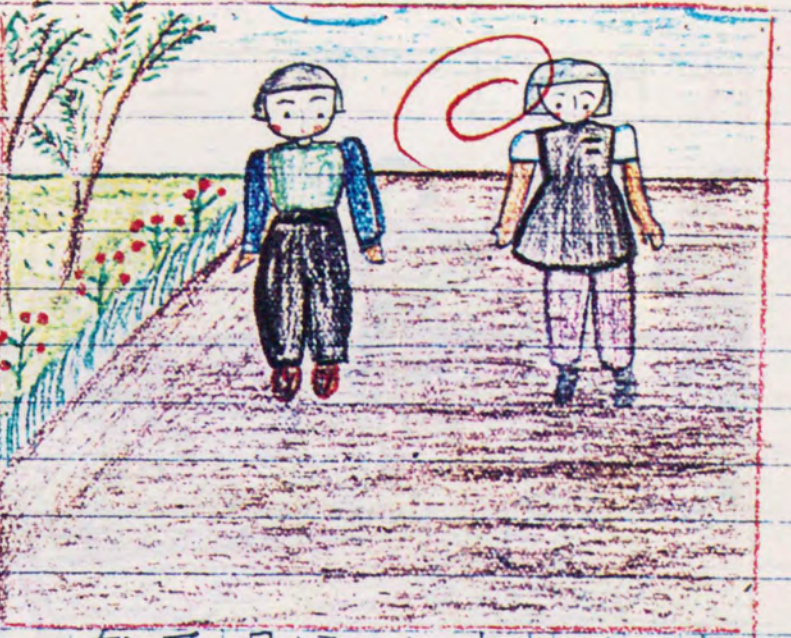
今日 四時間目の國語のお
 時間は、かみ洗をした。私は
 きたなかに、かみ洗いで、洗った。風が
 と、たも、い、気が持った。洗った。風が
 洗った。かみ洗いの毛に、あたった。お母
 やり、と、する。夕方、私に、お母
 様から、お使いが来た。とても
 うれしかった。

省
 反
 さんが泣かしてしまっ
 がある。泣かしてしまっ
 反
 へんな事をいって、追水
 がある。

省

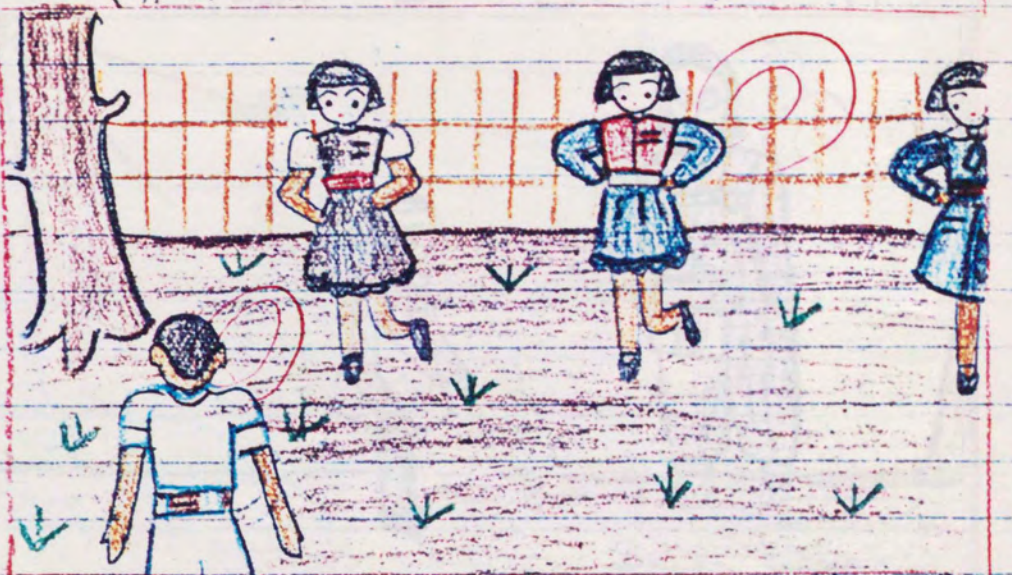
2 お家の中へばっかりは、いつてゐたのがわるい。

反
 1
 こ話をしたのがわるい。



なても、トランプをして遊んだ。
 夕食は、おそう水だった。と
 むた。と、てもい、ひに、ほひだ。
 した。山な、て、みた。私、は、少
 た。道の、両側に、ばらの、実が
 私、は、追水さんと、二人で歩いた
 どう、の方へ、おさん、ぼ、に行つた

(晴雨川) 土 日 一 十 二 月 十



今日、行軍があるはずだ。雨が降って来たので、午後にはおべん強があった。お日様が照って来た。体操のお時間は、体練大会にやる、音に遊ぎの人のふしだ。草をふみながら、のびのびと。足がぬれてしまった。虫がくっついてる。枝豆が出た。虫がくっついてる。お日様が照って来た。体操のお時間は、体練大会にやる、音に遊ぎの人のふしだ。草をふみながら、のびのびと。足がぬれてしまった。虫がくっついてる。

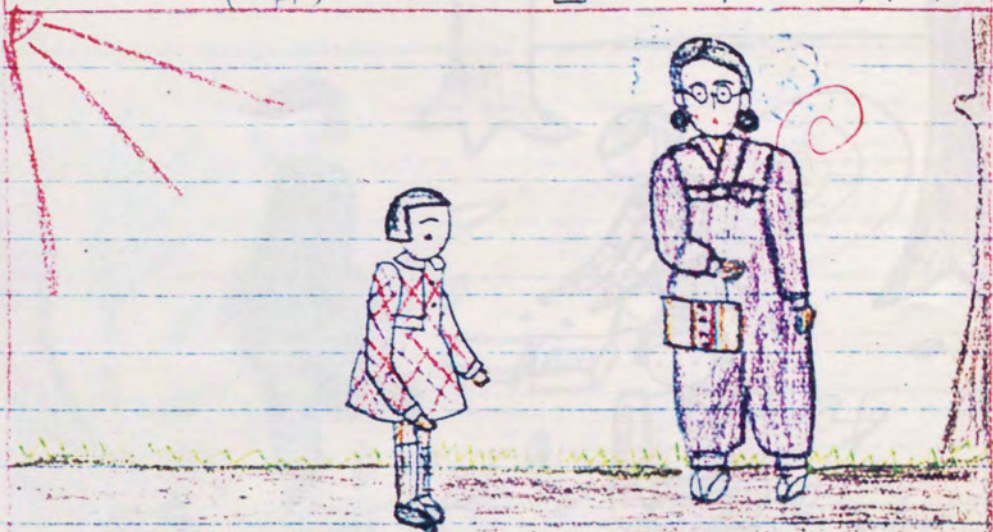
とてもおいしかった。それから日記を書いた。

夏におゆぎの時まちがへてばかり居たのがわるい。

日記をためてしまったのがわるい。

省

十日二十一日 (晴)



今日は、たのしい面會日だ。とてもよいお天気で、お日様がかんかん照ってゐる。朝の内は、今度から宿舎が女學校の宿舎になったので、荷物やふとんをはこんだ。かたづけから、國民學校へ行って、お母様がいらっしやるのを待つてゐた。かきねの間からお母様のお顔が見えた時はとてもうれしかった。お母様がいらっしやうたので、女學校へおつれした。色々な物を持つ。

ていらっしやうたので又、せいとんをした。とてもよく日があたつてゐるので、お母様方がおふとんを干して下さった。日なたぼっこをしながら、お母様と、色々お話をした。お母様は、四時ころまでいらっしやうた。おあかへりになる時は、門の所まで、お送りした。とてもたのしい一日だった。

たのしい一日だ

省
反
お母様が御本を日なたで干してはいけないとあつたのむりにむりに干したのがわるい。

十月二十三日 (晴)



今日は、午前中は、授業で
午後からは、ほきう所へ上
げる。どん栗と、私たちの
いたたく栗をひろひに行っ
た。元氣よく門をくぐって、
土牛の道を通って行った。
林へはいった。一度目の林
には、とてもたく山どん栗
が落ちてゐて、取りきれな
いほどだった。私は、石田
さんと一しよに取った。し
ばらく行くと、栗の實が落
ちてゐた。とてもうれしか

おいしい栗

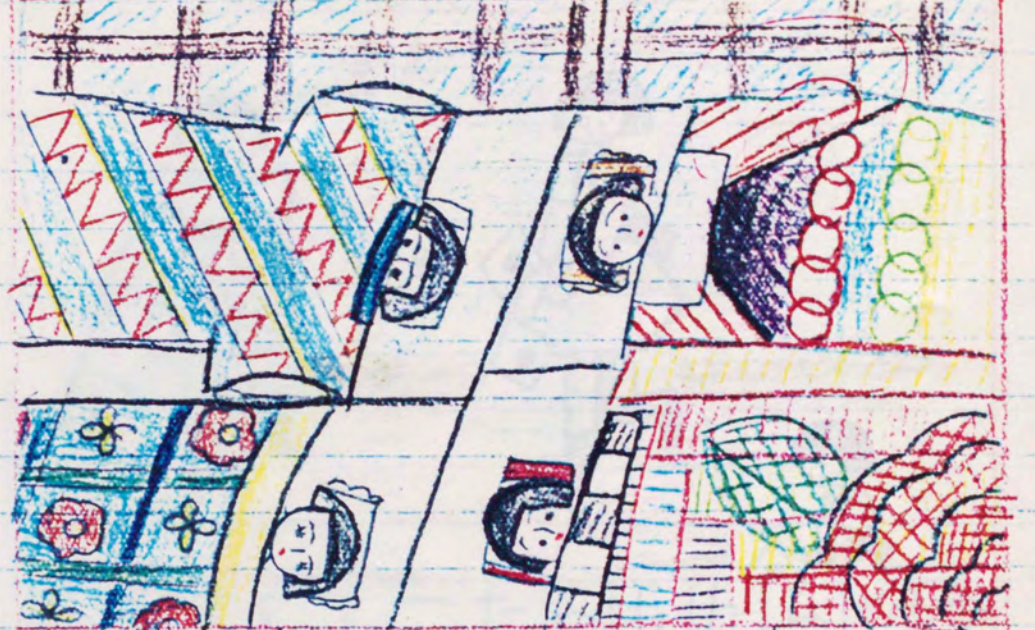


った。かへる時には、とて
も一ぱいにどん栗や栗があ
つまった。お八つのは、
とても大きなおいしい栗が
四つ出た。とてもおいしか
った。

うす目をあいたのがわるい。
お八つのもくたうの時、早くいた
たきたいので、

省

十月二十四日 火 (晴)



今日は、午前中は、お授業
で午後は、たいひくん練を
やった。さうして、組々に
防空ごうもきめて下さった。
それがすんでから明日の体
練大会にやる音楽ゆうぎを
五六年と一しよに練習した。
これです。あけかと思ふと
なんだかこはいやうな気が
する。夕御飯がすんでから
女学校へかへって、明日の
体練大会の用意をした。と
う火かんせいなので、今日

だけとくべつ早くねた。それから皆んなでかはり番に
歌を歌った。私は、岡見さんと二人で歌った。

省
又
うそをついたのがわるい。

十月二十五日 水 (晴)



見てみるも
書くといいですね

今日は、待ちに待った。たの
しい体練大会だ。起きて見た
らよいお天気なので、安心し
た。七時に出発なので、とて
も急がしかった。高田馬場か
ら電車に乗って、学校へ行っ
た。校門を元氣よくくぐった。
一部五年のお入りをあかりし
てそこで運動の出来るしたく
をした。かけたこの時は、私
は、みどりだが大いので黄色
になった。見物の方を見たら
お母様が松浦さんのおばあ様

おあき子ちゃんといらっしやっ
らっしやった。音楽遊びの時
は、お母様の腰をかけて
いらっしやるそばなので一生
けん命やった。とんどん
進んで行って、たうたうおひ
る御飯になった。私は、
ゆっくりお母様とお話した。
御飯をいただく時あき子
ちゃんが「しよにたぶたい」と
いふのでとなりにかけて
して上げた。ごちさうがたく
山有ったのでおなかが一
ぱいになった。午後からは、
私たちの出るのは、つな
引だったが、私は、足がいた
いのでやらなかった。一
二年の日の丸行進は、とて
もきれいで面白かった。さ
いごは、一二年と先生方のつ
な引だった。それは、先生
方の勝ちだった。今日のし
ょうぶは、九たい八で白
の勝になった。私は、来年こそ
勝たうとけっしんした。

晴 (木) 日六十二月十



今日は、午後から又、どん栗
ひろみに行つた。今度は、反
たいに一度目の林は、あんま
りなかつた。でも、ぐみや、
バラの實や色々の秋の草花が
有つた。それで、つんでかへ
て、をし花やをし葉にした。
かへつてからお八つにおい
しいあまいさつまいものふか
したのが出た。晩、みんなと
一しよに千代紙で、かはい
い手帳を作つて遊んだ。私は
おとなりのお姉様に上げるの

反エお母様がおっしゃつたのにはづかしいので、ぐづ
ぐづしてみたのがわるい。



かへる時はとてもくたびれた。
とてもたのしい一日だった。
—のこらぬ。ちんぷく
書きあひのふ

雨 金 日七十二月十



高田先生

今日は、雨が降ってゐるので
 一日中お勉強だった。晩は、
 お話と歌の月べだった。一は
 お話で、石田先生だった。二
 は新しげ居だった。岩丸先生
 のら話は、そんなこくうだった。
 とても面白かった。近どう先
 生有が先生、高田先生は、み
 んなお歌だった。とてもゆ
 わいに笑ったのでおなかがい
 たくなるほどだった。

反 日記をためたのでらんで
省 くに書いたのがあるい。

省 反

上 反たいごとをいってやらざけたのがあるい。
下 反そをついたのがあるい。

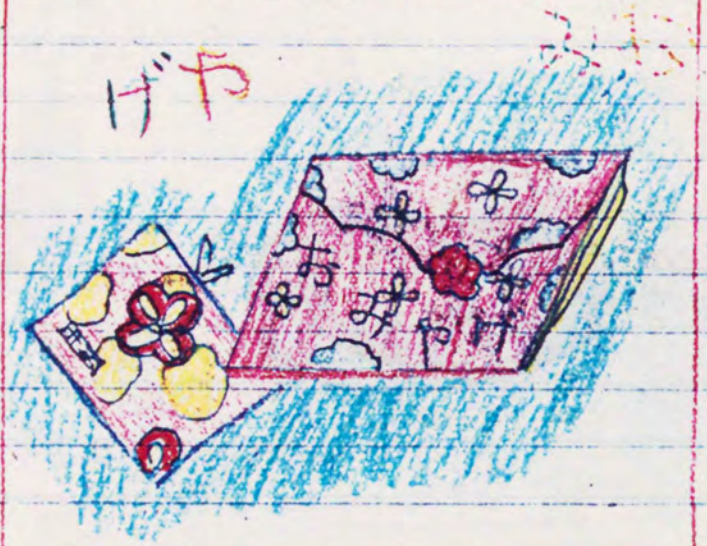
で、ちがふのを三まつ作た。さうしてねるまで作って
 めた。



今日は、午前中も午後もお勉強だった。三時間目の体操のお時間は、ボールでぶっける鬼ごっこをした。ほかほかと暖かく照るお日様のためにかけまはるととても暑くなった。五時間目は、かみを洗った。五人りようよう所へ行つて、五人しか居ないのでとても静かだった。先生が一人人洗つて下さった。きれいにすんで居る水があかで黒くにぎって行く。かみを洗ふところもこ

い氣持だ。

反上かみを洗ふ時となりの人におゆをひっかけた。あやまらなかつたのがわるい。



今日は四・六年の面會日だ。私達は、面會日でないので、皆んなで、お手玉をしたり、おみやげを作ったり日記を書いたりしてゐました。私は、おとなりのお姉様にあげる、おみやげや手帳を作りました。それから、一部六年の佐竹さんのお母様に、おことづけを

十月三日 雨



今朝目がさめたら雨がざあど
あ降つて居た。みどりの松林
が光つてとてもきれいだ。朝
會の時は、けういくちよく語
ほうどく式があった。体さう
のお時間、岩丸先生が、面
白いそんな話のお話をして下
さった。とても面白かった。
お人つには、あまおいしい
おさつのかかしたのがあった。
あまくてとてもおいしかった。

反答

上
新くすをちらかしたのがわるい。



おたのみした。日が照つて
て、とてもあたたかい。お八
つにはさつまいものかかした
のが出た。



反 上 お 式 の 時 頭 を 動 か し た の が わ る い 。

今日午前中も午後もお授業
だった。五時間目は、お習字
だった。私が自習になった。大勢
りようよう所へ行ったので静
かだった。私は、繪日記がた
まってるので書いた。お日
様が照って居るので、せなか
がぼかぼかあたたかくなって
とてもよい氣持だ。少しあつ
いくらひになつて来る。



反 上 日 記 が た ま っ て 居 る の に あ そ ん で 居 た の が わ る い 。

午後にごん栗拾ひに行つて居
たらけいかいけいけいけいけい
れいになつた。用意して居る
と、今度は、くうしうけいは
うがは、つれいになつた。私
たちは、急いできめられた。二
うくうぐうへいいた。二
年や高等料が居るのでとても
きゆうくつだった。それにと
ても暑いのでとても困つた。
二時間くらひは、いつて居たら

晴 木 日二月一十



今日の四時間目の國語のお時
間は、お風呂にはいった。
とてもいい氣持だった。出て
からは、作業でさつまいもの
くきの皮むきをした。私は、
岡見さんと一しよにやった。
お日様がぼかぼかと照ってと
ても暖い。五十本くらひむい
たら、やめと先生がおっしゃ
った。私はとった、葉や皮を
兔にやって、皮をむいた莖を
ざるの中へ入れた。

わうやくくうしゅうけいはうがかいじよになった。私
達は、防空ごうから出た。でも、まだけいかいけいは
うが出て居るので、防空服さうをして居た。おしい
おハつをいただいで居ると先生が、げいかいけいはう
がかいじよになりましたとおっしゃった。とてもうれ
しかった。

反^上あはてたのがわるい。

省^二防空ごうの中で、おしゃべりをしたのがわるい。

雨 金 日 三 月 一 十



又上生けん命むかなかつたのがわるい。

今日は、お目出たい明治節だ。朝會の時お式が有った。午前中は、自分で自ゆうの事をした。私は、日記を書いたりきせかへ人形をしたりした。おひるは、おいしいきんとんだった。午後からは、えんげいのお話大會が有った。一部二部とわかれてゐて、とても面白かった。
反上金だらひを皆んな水を流し
浴てふせた。

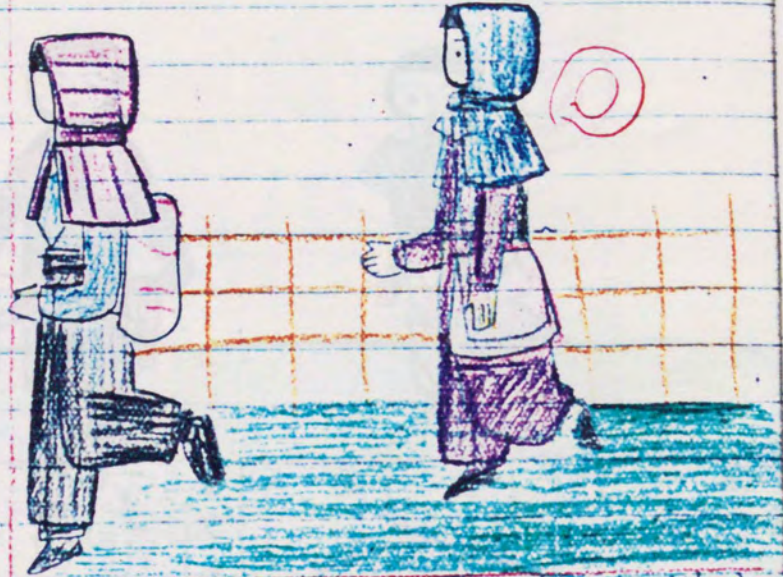
雨 夜 晴 土 日 四 月 十



今日は、午後石田さんがうがえんでお家へおかへりになつた。私はわまらなかつた。みんなでかきねの所まで行つてお送りした。石田さんも、近どう先生と一しよに歩きながら手をいをつけていらつた。私達も手をいふた。お夕食がすんでから明日晴れるやうに照てる坊主を作つた。
反上
坊主が早く作らなかつたので日記をらんばうに書いてのがわるい。



起きて見たら小雨がしとし
と降って居た。今日は、う
れしい面會日だ。雨もその
内にやんだ。待って居ると
私のお母様と入江さんのお
母様がいらつしやうした。ヒ
ルマ人を二人つれていらつ
しやうたので、はずかしくな
ってしまつた。色々な事を
お話して居ると、とつぜん
けいかいけいはうがはつれ
いになつた。お母様はおか
へりになつたが、すぐにく
うし、けいはうになつたの
で、又もどつていらつしや
うた。さうして、私達の、ごう
へいしよにおはいらになつ
た。でも、すずぐにかいじよ
になつてお母様はおかへり
になつた。



省 又、ごうの中へはいつてから大きな、えで、おしやぐり
をしたのがわるい。

うし、けいはうになつたの
で、又もどつていらつしや
うた。さうして、私達の、ごう
へいしよにおはいらになつ
た。でも、すずぐにかいじよ
になつてお母様はおかへり
になつた。

晴 月 日 六月 一十



今日の午前中はほきう所へたき
木をいただきに行くはずだった
か。けいかいけいはうがはつれ
いになったので、やめになって
授業になった。午後、明子さん
や岡見さんと一しよにきせかへ
をつつた。本や箱をお家にして
とても面白かった。それから日
記を書いた。
反工せんめんをする時ゆっくり
して居たのがわるい。

晴 火 日 七月 一十



今日は、午後にかみ洗ひをした。
せ、けんをつけて居たらだしぬ
けにけいかいけいはうがはつれ
いになった。私は急いで、か
て防空服をうになつた。それか
ら又ずいいで居ると今度は、
うしんけいはうがはつれにな
った。私は急いで、かいて、防
空頭巾をかぶつて、防空ごうへ
はいった。しばらくすると、か
いもよになつた。今日はてきま
が疎開學園の上をとんで行った
さうだ。

晴 木 日九月一十



今日の三時間目の体さうのお
時間は、富士山を見にりよう
よ、う所のの方へ行った。りよう
よ、う所ののの草のはえた
へ、いごしに見ると富士山が雪で
白くきれいななつて、青空に
く、きりそびえて居て、と
てもとてもきれいだっただ。か
へりには、かけっこをしながら
うかへった。

水 日八月一十



今日は、大せう来た日だ。
一時間目は、北支にいらつし
やる兵隊さんへぬもん文を書
いた。午後には、お勉強がすん
で、お母様といらつしやいま
が、お母様といらつしやいま
した。お牛玉をしたり
トランプをしたりして遊んで
あげた。お夕御飯は、水とん
だ。

反
朝、目がさめてから岡見さんとお話をしたのがわ
るい。

反
上
ぬもん文のへうしをらんざつに書いたのがわるい。

晴 土 日一十月一十



はーいのは大へん
よくあまわしぬかき

今日は、二時間目に、お小ろ
でわがす、たきぎを運んでみ
ると、森先生が、田下部さん
は、まんかの、あへうしゃになっ
て、うっし、と、あべ先生の所へ
字のどろし、を、持って、いん
や、おっし、や、たの、取っし
て、来た。おっし、の、先生、の、
は、んが、つ、いて、の、お、話、が、あ
た。午後から、は、ほ、る、事、にな

晴 金 日十月一十



反省
一 体さうの時一しようけんめい歩かなかった。

今日は、午後から、松林のお
さうじをした。私は、小林さ
んやえんどうさんと組を作っ
た。さうして一本のくま手
をかはり替わった。たく
山有った。松葉もへってやう
やくすんだ。私は、日記がた
まうて居るので、日記を一生
けんめい書いた。でも火曜日
までしか書けなかつた。
反省
一 おさうじの時お話し、
一生けんめいやらなかつた



- 30 -

晴曇 日 日二十月一十



今日は、四六年の面會日だ。日記を書いて居たら、明子さんが日下部さんよはどびしな。とあつしぎたのでなはどびをした。しぜんと体が暑くなつて来るし。とても面白くて、あうでやつた。しばらくやめてきた。たので、やめてきた。かへした。り本をよんだりした。反日記がたまつて居るのを書かかないでほかのことをして居たのがわるい。

反日記
あつしぎたのでなはどびをした。見ても面白かった。

だ。私は、あひるがおよいで居る所をほめた。はじめてなので、へただった。たが、どうにかほれた。とても面白かった。

晴 火 日 四 十 月 一 十



今日は、午前も午後も、作業だつ
た。午前は、まきう所へ、まきを
拾ひに行つた。先生が、今日は、
うんとたたく山持つていらしゃいとお
じやうたので、橋本さんばそたく山はこ
びました。かへた。こちへ来たお話
をしながら、みどり色オオ味
の葉の赤や黄色にきれいな
の葉の赤や黄色にきれいな
す。秋の風にはいららうとちつて居ま

晴 月 日 三 十 月 一 十



今日は、午前も午後も、作業だつ
た。午前は、まきう所へ、まきを
拾ひに行つた。先生が、今日は、
うんとたたく山持つていらしゃいとお
じやうたので、橋本さんばそたく山はこ
びました。かへた。こちへ来たお話
をしながら、みどり色オオ味
の葉の赤や黄色にきれいな
の葉の赤や黄色にきれいな
す。秋の風にはいららうとちつて居ま

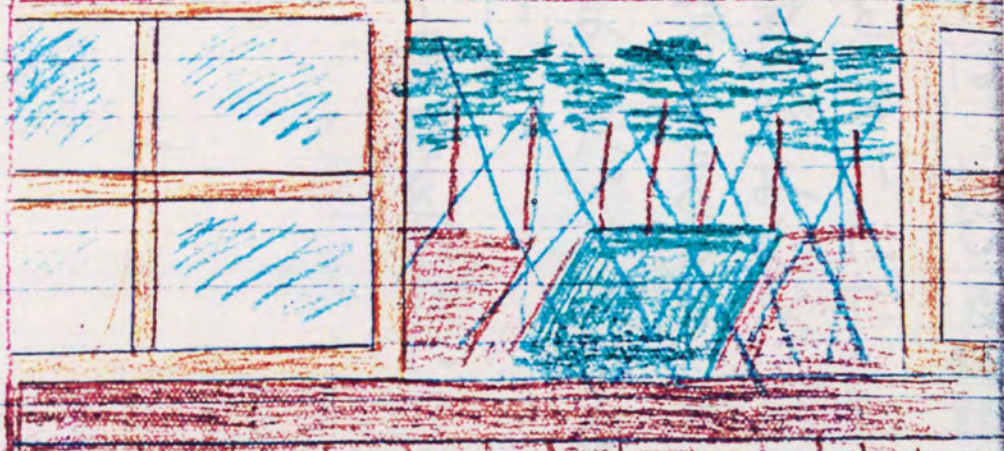
十一月五日 水 晴



朝の体さうは、いっさーふりーのたい。おやくみくーのせうぬ。
朝のかけ足の時一生けんめいやらなかつた。

今日は、午前は、まきはこびで、
午後は、りなうよう所へ体重はか
りに行った。私は、二十四てんの
でした。たたく山かえたのでとても
うれしかった。かへりに道の両側
を見た。らちの木の葉が色々な
色にそまっでとてもきれいだった。
お八つはおいしーさまいものしか
したのだ。た。
反よりようよう所の中でお話した
省のがわるい。

十一月十六日 水 雨



今日は朝から雨が降って居たの
で一日中お強だった。お授業が
終つてから、きせかへをした。
さうしてお洋服やお心とんを作
って遊んだ。外を見たら松の木
が雨にぬれてきらきらと光って
居るとてもきれいに見えた。頭
の上の屋根に雨があたって、ほ
たんぼたんとかはいい音を立て
て居る。
エお夕飯の時、後をむいてお
反話をしながらいただのがわる
省い。

晴 金 日七十月一十



$27 \times 3 = 81$
 $16 \times 2 = 32$
 $15 \times 5 = 75$
 $20 \times 4 = 80$
 $25 \times 3 = 75$

$78 \div 3 = 26$
 $52 \div 4 = 13$
 $52 \div 2 = 26$
 $95 \div 5 = 19$
 $57 \div 3 = 19$

$38 \times 2 = 76$
 $12 \times 8 = 96$
 $19 \times 4 = 76$
 $15 \times 3 = 45$
 $25 \times 2 = 50$

$30 \div 2 = 15$
 $91 \div 7 = 13$
 $34 \div 2 = 17$
 $77 \div 7 = 11$
 $75 \div 5 = 15$

今日はおひる御飯の前にとこやさんにごんごん
 つきしていただいた。きれいになったのでとて
 も氣持がよくなった。作業のお時間は、始めに
 松葉かきをした。たく山落ちて居たのでたく山あ
 つまった。それから昨日の日記が書いてないので
 書いた。

又上葉書をむだにつかいたのがわるい。

省

日記 御飯 前にとこやさんにごんごん
 御飯 前にとこやさんにごんごん
 御飯 前にとこやさんにごんごん
 御飯 前にとこやさんにごんごん
 御飯 前にとこやさんにごんごん

雨曇 土 日八十月一十



きでっ 飯今
あかての 日
へた來時 ば
やずたか
へけのら お
入てで雨 晝
れい急が の
たすい降 二

32+2=34 4+54=58 64+3=67
7+57=64 76+8=84 6+73=79
96+4=100 2+88=90 30+50=80

掃。掛けて。俾。留。場。表。町。甲。せ。
①木。幹。豊。操。業。迅。銀。押。せ。

十九 風がすみ

あすからうれしに夏がすみ。
あすからうれしに夏がすみ。
あすからうれしに夏がすみ。

あすからうれしに夏がすみ。
あすからうれしに夏がすみ。
あすからうれしに夏がすみ。

あすからうれしに夏がすみ。
あすからうれしに夏がすみ。
あすからうれしに夏がすみ。

あすからうれしに夏がすみ。
あすからうれしに夏がすみ。
あすからうれしに夏がすみ。

あすからうれしに夏がすみ。
あすからうれしに夏がすみ。
あすからうれしに夏がすみ。

許して唱歌 鐵橋

許して唱歌 鐵橋 彦 船 煙 香 彦 鐵 橋 大 瀬 瀬 川

許して唱歌 鐵橋 彦 船 煙 香 彦 鐵 橋 大 瀬 瀬 川
許して唱歌 鐵橋 彦 船 煙 香 彦 鐵 橋 大 瀬 瀬 川
許して唱歌 鐵橋 彦 船 煙 香 彦 鐵 橋 大 瀬 瀬 川
許して唱歌 鐵橋 彦 船 煙 香 彦 鐵 橋 大 瀬 瀬 川
許して唱歌 鐵橋 彦 船 煙 香 彦 鐵 橋 大 瀬 瀬 川
許して唱歌 鐵橋 彦 船 煙 香 彦 鐵 橋 大 瀬 瀬 川
許して唱歌 鐵橋 彦 船 煙 香 彦 鐵 橋 大 瀬 瀬 川
許して唱歌 鐵橋 彦 船 煙 香 彦 鐵 橋 大 瀬 瀬 川
許して唱歌 鐵橋 彦 船 煙 香 彦 鐵 橋 大 瀬 瀬 川
許して唱歌 鐵橋 彦 船 煙 香 彦 鐵 橋 大 瀬 瀬 川

許して唱歌 鐵橋 彦 船 煙 香 彦 鐵 橋 大 瀬 瀬 川

許して唱歌 鐵橋 彦 船 煙 香 彦 鐵 橋 大 瀬 瀬 川

位位位位位位位位位位位位位位位位位
 相相相相相相相相相相相相相相相相相
 問問問問問問問問問問問問問問問問問
 承承承承承承承承承承承承承承承承承承
 案案案案案案案案案案案案案案案案案案
 案案案案案案案案案案案案案案案案案案

$52 \div 4 = 13$ $60 \div 4 = 15$ $64 \div 4 = 16$
 $76 \div 4 = 19$ $96 \div 4 = 24$ $100 \div 4 = 25$
 $65 \div 5 = 13$ $70 \div 5 = 14$ $75 \div 5 = 15$
 $90 \div 5 = 18$ $72 \div 6 = 12$ $84 \div 6 = 14$
 $96 \div 6 = 16$ $84 \div 7 = 12$ $98 \div 7 = 14$

ササ舟が四メートル流 レルアヒリ
 手のミヤヲミテ 平タラハナウチマシタ。
 舟が四メートル流 レル間ニ
 ミヤヲハイワツウツタデセウ
 (コタヘニナウチマシタ)

競發艇組選 艇 號令勝最
 相問承案積出案

日記

晴

以上

體

探

合

同。涼しい。鳴く。起さる。迷る。梁し。み。

氣持。

76 4 2 1 3 10 15 0

$84 \div 2 = 42$
 $72 \div 2 = 36$
 $69 \div 3 = 23$
 $78 \div 3 = 26$
 $78 \div 2 = 39$
 $13 \times 4 = 52$
 $23 \times 3 = 69$
 $18 \times 4 = 72$
 $32 \times 5 = 160$
 $37 \times 2 = 74$

$35 \times 7 = 245$
 $25 \times 2 = 50$
 $100 \div 4 = 25$
 $120 \div 30 = 4$
 $50 \times 3 = 150$
 $25 \times 83 \times 6 = 49818$
 $82 \div 2 = 41$
 $8 \times 60 = 480$
 $70 \div 2 = 35$
 $100 \div 5 = 20$

天の部屋 参宮たより
 照お集の鶏鏡杉殿御拜居
 支那の春 おたまたま
 腰鏡仲菓糖大喜綿泳蛙過短息採
 八岐のたろち かま
 管蛇酒恐飲劔拔柔香逢感四底
 3.5 1.5

$(50) - 23 = 27$
 $(61) - 38 = 23$
 $(80) - 62 = 18$
 $(91) - 18 = 73$
 $(47) - 28 = 19$
 $(65) - 29 = 32$
 $(8) \times 7 = 56$
 $8 \times (11) = 88$
 $(47) \div 7 = 7$
 $(47) \div 3 = 8$
 $36 \div (6) = 6$
 $81 \div (9) = 9$

五月二十三日 壬午

鳴宇治橋教過血讀途中靜感心
助始死血來海底林野原度泳見
集鏡進着渡拜瞻銃呼大喜息短

鏡 鶏 葉 笑 喜 渡 雨 立 並 拜 七 屋 根
頭 宇 治 橋 檀 原 神 宮 待 二 十 七 夜
天 長 郎 實 聲 銃 腰 黑 落 顏 巢 子
水 糖 砂 相 愛 國 行 進 曲 教 入 靜 窟
紅 糸 寒 尾 親 鯉 已 第 過 息 岸 壱 八
岐 天 照 大 神 勇 氣 出 雲 著 流 大 地 阿 娘
非 立 強 酒 用 意 欲 七 恨 劍 坂 下 刀 桑

五月十二日
五月十四日

鷄 參 宮 參 宮 檀 辰 檀 辰 砂 糖 砂 糖 茂
茂 酒 法 劍 劍 感 心 成 心 殿 殿 御 御 御 門
五 十 鈴 川 三 子 綿 綿

五月二十一日

二 眠 桑 橫 線 香 弱 途 中 死 感 心 二 眠 桑
橫 線 香 弱 途 中 死 感 心 二 眠 桑 橫 線
香 弱 途 中 死 感 心 二 眠 桑 橫 線 香 弱
途 中 死 感 心 二 眠 桑 橫 線 香 弱 途 中
死 感 心 二 眠 桑 橫 線 香 弱 途 中 死 感 心 二 眠 桑

八岐のをろち出雲箸大蛇残った強い酒
恐しい飲む眠った劔を抜く血刃八岐
のをろち出雲箸大蛇残った
強い酒恐しい飲む眠った劔を
抜く血刃八岐のをろち出雲
箸大蛇残った。強い酒恐しい飲む眠
った。劔を抜く血刃

桑 桑 桑 桑 桑 桑 桑 桑 桑 桑
線 香 線 香 線 香 途 中 途 中 途 中 途 中
感 心 感 心 感 心 感 心 感 心 感 心 感 心 感 心 感 心

横 横 横 横 横 横 横 横

泳いで行列胸破れて短く戻って足を
曲げて泳いで行列胸破れて短く戻
つて足を曲げて泳いで行列胸破れ
て短く戻って足を曲げて泳いで行
列胸破れて短く戻って足を曲げて
泳いで行列胸破れて短く戻って
足を曲げて

八岐のところち出雲箸大蛇残った
怒しい飲む酒劔血刃八岐の
出雲箸大蛇残った怒しい飲む酒
劔血刃八岐の
をろち出雲箸大蛇残った。恐
しい飲む酒劔血刃

五 月 半 三 日 (土)

岩屋天照大神 大勢鷄 天手力男神 お喜び

參宮宇治橋五十鈴川 神殿 御門 檀原神

宮 岩屋天照大神 大勢鷄 天手力男神 お

喜び 參宮宇治橋五十鈴川 神殿 御門

檀原神 宮 岩屋天照大神 大勢天手力

男神 お喜び 參宮宇治橋五十鈴川 神

殿 御門 檀原神 言

五 月 十 五 日 (月)

重ねた。菓子氷砂糖 愛國 行進曲 見渡

すかぎり 綿 重ねた菓子氷砂糖 愛國

行進曲 見渡すかぎり 綿 重ねた菓子

菓子氷砂糖 愛國 行進曲 見渡すかぎり

綿 重ねた菓子氷砂糖 愛國 行進曲

見渡すかぎり 綿 重ねた菓子氷砂糖

愛國 行進曲 見渡すかぎり 綿